

# 3.11 後を生きる

## ほらそこに

熊井三郎

かげもない  
かたちもない

けはいもない  
においもない

ねむらない  
やすまない

ひそんでいる  
ねらっている

〈おいしいやつはいないか  
へやわらかいやつはいないか

ほら そいつはそこにいる  
そこにいる

とびかかるつもりだ  
とりついてはなれぬつもりだ

くわれっちまうぞ  
みなごろしにされっちまうぞ

みてもみていないなら



くまい・さぶろう  
1940年、大阪府生まれ。詩誌「詩人会議」  
「軸」などに所属。奈良  
県上牧町在住。

私たち日本人は三度の核被書に遭って、放射能の恐ろしさ、執念深さを熟知していたはずなのに、気がつけば地震列島を五十四基の原発が覆う原発大国にしてしまっていた。四度目の災厄を経て、今や脱原発が国民多数の願いになった。ところが、この期におよんでも、なお色あせた神話に固執する原子利欲ムラの住人たちが跳梁している。経団連の圧力に政治は屈してはならない。

「ほら そこに」は市井人の遺言である。

◇ 原発に関わる詩を集めた「脱原発・自然エネルギー218人詩集」(コールサック社)から作品を紹介します。



# アシタノコトバ

